



咲けるだけ咲かそうクレヨンのチューリップ

加藤潤子

子どもがチューリップを描いているのを見てると楽しくなってきた。いいね、いいね。もっともっと咲かせてごらんよ。画用紙はお花畑だね。



べったりと貼り付くやうに春の風邪

岡本やすし

「べったりと」がいいね。何とも言えない体のだるさと陰鬱な気分がよく出ている。春の風邪の執拗を写生句にするという冒険が成功している。



着ぶくれて自転車またぐよいしょかな

上山美穂

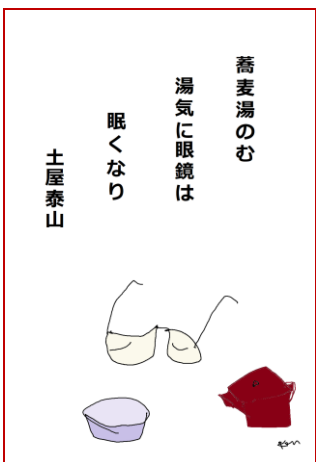
「よいしょ」がとてもいい。無意識に口走ったつぶやきをうまく使って面白い句となった。もっと着ぶくれてもっと重くなると「どっこいしょ」となる。



大根一本初めてののおつかいの

上甲 彰

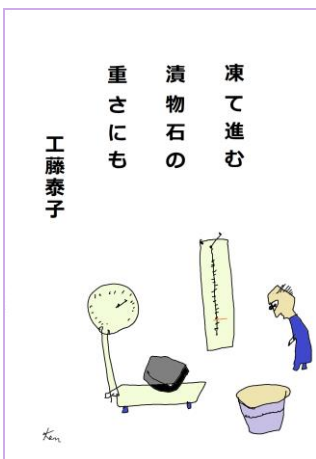
初めてののおつかいでは複雑な買い物は難しい。よく知っていて分かりやすい物がいい。しかし、達成感も持たせたい。それには大根が最適なのだ。



蕎麦湯のむ湯気に眼鏡は眠くなり

土屋泰山

湯気にくもった眼鏡を眠そうとは、ただならぬ感性である。擬人化は滑稽句の得意技だが、この句には作者自身と眼鏡が一体化した面白さも。



凍て進む漬物石の重さにも

工藤泰子

寒くなったから漬物石が重くなるというのは「巧妙な嘘」である。全く科学的ではないが、詩人、俳人、芸術家にとっては真実なのである。